

第4次 下田市総合計画

2011年 ⇒ 2020年

SHIMODA

静岡県下田市

ご挨拶



自然と歴史を活かし、やすらぎと活力のある美しいまち

このたび、平成23年度を初年度とする10ヶ年のまちづくりの指針となる「第4次下田市総合計画」を策定しました。

本計画の特徴としては、「経営管理が可能である」「健全な行財政運営を維持する」「市民と行政が共有する」の3点が挙げられます。

この3点の特徴を設けたのには、この10年の本市の厳しい行財政状況がありました。第3次総合計画を策定した10年前の平成13年度当初には約251億円の市債残高がありましたが、行財政改革の推進などにより現在約193億円まで減らすことができました。

財政状況は改善してきましたが、その間市民の皆さまには様々なご負担をいただくとともに、公共施設の耐震化や統廃合などの見合わせにより、ご迷惑をおかけした面もあったかと存じます。

そうした反省から本計画では、基本目標、目標値、財政計画などを示し、行政運営の効率化と行政サービスの維持向上を継続的に推進していくとともに、今後10年で優先的かつ重点的に取り組む事業を明示し、必要な事業を計画的に推進してまいります。

なお、事業については、アンケートや地区懇談会などで多くの市民の皆さまから要望のあった生活に

密着したものを中心に進めていくこととしました。

また、計画原案は、市役所の若手・中堅職員により手づくりの作業で進められ、これからの市政の担い手として貴重な経験を積んだことも大きな成果と捉えています。

今後も人口減少、少子高齢化や経済状況など、本市を取り巻く環境は厳しさを増していくことが予想されます。そうした逆境を乗り越えて、将来都市像である「自然と歴史を活かし、やすらぎと活力のある美しいまち」を実現していくためには、市民の皆さまと行政が協働し、一丸となってまちづくりを行っていくことが一番重要となります。

本計画のもと、より成果を重視し、より開かれた市政を推進するために、今後とも一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本計画の策定にあたりまして、ご尽力を賜りました総合計画審議会委員並びに市議会議員の皆さまをはじめ、経済団体の皆さまや地区懇談会、まちづくりアンケート、パブリックコメントなどで貴重なご意見、ご提言をいただきました市民の皆さまに心からお礼を申し上げます。

平成23年3月

下田市長 石井直樹

下田市民憲章

(昭和45年12月21日告示第32号)

わたくしたちの住む下田は、開港の歴史に彩られ、近代日本にれい明をもたらした港と海と山に囲まれたいで湯のまちであります。

わたくしたち、下田市民は、この郷土に限りない愛情と誇りをもち、わがまちをより美しく住みよいまちとするために、こゝに市民憲章を制定し、これを生活の信条として、更に自覚を深め、いましめ合って、よりよい市民となることを誓います。

- 1 下田の街は、我等の姿、美しい街をつくりましょう。
- 2 下田の港は、我等のふるさと、訪れる人を温かく迎えましょう。
- 3 郷土の歴史は、我等の誇り、住みよい街をつくりましょう。
- 4 はまゆうは、我等の香り、自然を大切に守りましょう。
- 5 太平洋は、我等の力、力いっぱいはげみましょう。

下田市平和都市宣言

(平成21年12月11日可決)

開港の歴史に彩られ、近代日本に黎明をもたらした港と海と山に囲まれた、いで湯のまち、下田。この素晴らしいまちで、平和で豊かな暮らしを次の世代に引き継ぐことが、私たち下田市民の願いである。

世界平和の実現は人類共通の願いであるが、今なおこの地球上では、戦争やテロリズムなどにより尊い人命が失われており、核兵器の拡散も懸念されている。

私たちは、このかけがえのない地球の平和と美しい自然を守るため、あらためて日本国憲法の掲げる恒久平和の理念のもと、核兵器など大量破壊兵器の廃絶と世界平和の実現に貢献することを表明し、下田市が平和都市であることを宣言する。